

茨城県看護職員海外研修に参加して Nursing training in the U.S.

渡 辺 美 奈 子

東京医科大学霞ヶ浦病院看護部

期間：1998年10月5日～10月16日

茨城県衛生部主催による「県内の医療機関などに勤務している看護職員を海外に派遣しその国の医療施設や福祉施設を視察し訪問国の看護職員との意見交換・交流・親善を通し他国の看護・医療事情を学び県内看護業務の向上に役立てる」ことを目的とした今回の研修に霞ヶ浦病院長の許可を頂き参加致しました。

参加者は茨城県内の医療機関など、看護職員17名と県衛生部の随行者1名の総勢18名で、平成10年10月5日から12日間の日程でカナダ(トロント)アメリカ(ボストン・ニューヨーク)の2か国を訪問し、各都市の①医療看護・福祉事情②最新の看護を实践する医療機関③看護教育機関④クリティカルパスを实践している施設⑤その他の研修を行ってきました。

トロントのBOA(ビクトリア・オーダー看護サービス)ではお互いのコミュニケーションが大切であり24時間体制で連絡を取ることができるFAX, ポケットベル等で対応をしている。QOLを最大限にする又ケアは患者家族も含めるということで①精神面を含めた社会的ケア②魂・宗教③身体的ケアと3つのカテゴリーからなることを学び日本の身体的ケアに偏りがちな在宅介護の在り方について考えさせられました。

各施設の視察研修を通して多くのことを学びましたが、特にニューヨークのベスエイブラハムヘルス

サービスが強く印象に残りました。ここは在宅ケア・術後のリハビリ・身障者用アパートの運営などを行っていますが、利益目的ではなく個人負担は極小額で、運営費の大部分をニューヨーク市からの補助金と寄付金によって賄っておりアメリカの福祉の充実を垣間見ることができ感銘を受けました。

全体的な印象になりますが、アメリカ・カナダに共通していることでありましたが、医療・福祉の分野でかなりの部分がボランティアによって支えられていることでした。両国のボランティア活動は幼児期の家庭教育、少年期の学校教育を通して習慣づけられそれが社会生活の一部となっており、市民が当然の活動として奉仕しています。

カナダ・アメリカの歴史・文化に触れると共に各施設での研修を通じて個人、家族、団体及び国、社会全体が人間を大切にすることを学びました。

今回の研修で学んだボランティア活動に対する姿勢、医療・福祉制度、最新の看護、現在日本でも取組が始まっているDRG方式とクリティカルパスの实践などを今後の業務に生かせるよう努力したいと思っています。

最後に、今回の海外研修を企画・実施して下さいました茨城県衛生部並びに参加の許可と共に大川記念奨学金を支給して下さいました東京医科大学及び霞ヶ浦病院関係者に感謝申し上げます。